

ペルシア語の他動性

吉枝 聡子

1. はじめに

ペルシア語では、直接目的語は通常語順(SOV型)で示される。直接目的語が定の場合には後置詞 *rā* を付けて表すが、動詞によっては奪格機能をもつ前置詞 *az* や与格機能をもつ前置詞 *be* をとる場合もある。「見える」「聞こえる」等の知覚に関わる表現では、他動詞文に加えて受動構文、また「気に入る」「憶えている」「忘れる」「寒い」「空腹だ」等の感情や知覚を表す場合は、感情・知覚+動作主に対応する接尾辞形人称代名詞を文法的主語においた、一種の非人称構文が用いられることが多い。

2. データ¹

(1)

a. 彼はそのハエを殺した。

u	ān	magas	rā	košt.
彼	その	ハエ	～を POSTP	殺す-IND.PAST.3SG

b. 彼はその箱を壊した。

u	ān	ja'be	rā	pāre kard.
彼	その	箱	～を POSTP	破る-IND.PAST.3SG

c. 彼はそのスープを温めた。

u	ān	sup	rā	garm kard.
彼	その	スープ	～を POSTP	温める-IND.PAST.3SG

d. 彼はそのハエを殺したが、死ななかった。

「彼はそのハエを殺したが死ななかった」(**u ān magas rā košt vali magas namord.*)は、*koštan* 「殺す」にすでに対象に及ぼす影響が含まれているため非文となる。この場合、以下の「そのハエを叩いたが死ななかった」、あるいは「そのハエを殺そうとしたが死ななかった」等によって表す。「壊す」「温める」についても同様。

u	ān	magas	rā	zad	vali	magas	namord
彼	その	ハエ	～を POSTP	叩く-IND.PAST.3SG	CONJ	ハエ	死ぬ-NEG. PAST.3SG

¹ 本稿の作成にあたり、Kāve Maqsudi (本学大学院博士前期課程在学、男性、テヘラン出身)に協力いただいた。記して感謝したい。

ただし, rowšan kardan 「点ける」: 「彼は電気を点けたが, 点かなかった」 (u barq rowšan kard vali (rowšan) našod.) のように, 動詞が含意する影響の度合いによっては可能な場合もある.

(2)

a. 彼はそのボールを蹴った.

u be ān tup lagad zad.

または

u be ān tup zarbe zad.

彼 ~に PREP その ボール 蹴る-IND.PAST.3SG

b. 彼女は彼の足を蹴った.

u pā-ye u rā lagad kard.

彼女 足+EZ² 彼 ~を POSTP 蹴る-IND.PAST.3SG

「蹴る」は lagad zadan / kardan / zarbe zadan のいずれも使用可.

c. 彼はその人にぶつかった (故意に).

u be ān fard tane zad

彼 ~に PREP その 人 体当たりする-IND.PAST.3SG

be ~ tane zadan 「~に体当たりする, 突き飛ばす」は故意の意味が強いが, be towr-e ettefāqi 「うっかり」などの副詞句等を付加すれば「うっかりぶつかった」の意味を持たせることも可.

d. 彼はその人にぶつかった (うっかり).

u bā ān fard barxord kard.

彼 ~と PREP その 人 ぶつかる-IND.PAST.3SG

bā ~ barxord kardan は「(うっかり, または偶然に) ぶつかる, 遭遇する」の意.

(3)

a. あそこに人が数人見える.

ānjā čand nafar dide mišavand.

あそこ 数~ 人 見る-PAST.PTCPL ~になる-IND.PRES.3PL

² エザーフェは, 先行語に後続語詞・語句を文法的に関連づける前説小辞-e (母音の後では-ye). 詳しくは, 吉枝(2011)等を参照のこと.

man čand nafar rā ānjā mibinam.
私 数～ 人 ～を POSTP あそこ 見る-IND.PRES.1SG

「見える」は、*didan*「見る」を用い、知覚される対象物を主語として受動構文(過去分詞+*šodan*活用形)を用いるか、動作主を主語とした他動詞文「～を見る」のいずれかになる。どちらの文を用いても文意がもつ他動性に大きな違いはない。

b. 彼はその家を見た。

u ān xāne rā did.
彼 その 家 ～を POSTP 見る-IND.PAST.3SG

「(意識して) 見る」場合には、他動詞文のみを用いる。

c. 誰かの叫び声が聞こえた。

sedā-ye faryād (-e yek nafar) šenide šod.
声+EZ 叫び(+EZ +誰か) 聞く -PAST.PTCPL.3SG ～になる-IND.PRES.3SG

sedā-ye faryād (-e yek nafar rā) šenidam.
声+EZ 叫び(+EZ +誰か+～を POSTP) 聞く -IND.PAST.1SG
(動作主が「私」の場合)

d. 彼はその音を聞いた (耳を傾けた)

u ān sedā rā guš kard
彼 その 音 ～を POSTP 聞く -IND.PAST.3SG

šenidan は音声偶然知覚される場合に使用し、自発的・意識的な「聞く、耳を傾ける」には *guš kardan / be ~ guš dādan*「(注意して)聞く」(*guš kardan* は *rā / be* のいずれか、*guš dādan* では *be* のみ可) を用いる。「聞こえる」については、対象物を文法的な主語においた受動構文、動作主を主語においた他動詞文のいずれを用いてもよい。

(4)

a. 彼はなくした鍵を見つけた。

u kelid-e gom šode-aš rā
彼 鍵+EZ 失くなる-PAST.PTCPL+PRON.SUF.3SG ～を POSTP
peydā kard.
見つける-IND.PAST.3SG

b. 彼は椅子を作った.

u sandal (rā) sāxt.
彼 椅子 (~を POSTP) 作る-IND.PAST.3SG

(5)

a. 彼はバスを待っている.

u montazer-e otobus ast.
彼 待っている(ADJ)+EZ バス COP.IND.PRES.3SG

b. 私は彼が来るのを待っていた.

man montazer-aš budam tā / ke biyāyad.
私 待っている(ADJ)+PRON.SUF.3SG COP.IND.PAST.1SG CONJ 来る-SUBJ.PRES.3SG

c. 彼は財布を探している.

u donbāl-e kif (-e pul) -aš migardad.
彼 探している(ADJ)+EZ 財布+EZ+PRON.SUF.3SG 探す, 回る-IND.PRES.3SG

(6)

a. 彼はいろいろなことを知っている.

「知る・識る」は, dānestan 「(情報として) 知る」, šenāxtan 「識る, 見識る」を使い分ける.

u čizhā-ye ziyād-i midānad.
彼 事, もの PL+iSUF+EZ 多い+iSUF³ 知る-IND.PRES.3SG

b. 私はあの人を知っている.

man u rā mišenāsam.
私 彼 ~を POSTP 識る-IND.PRES.1SG

c. 彼にはペルシア語がわかる.

「理解できる, 分かる」を表す形容詞 balad と, 「理解する」を表す他動詞 fahmidan のいずれも使用可能.

³ いわゆる「無強勢の-i」. ペルシア語文法書では一般的に「不定の-i」と呼ばれ, 不定のマーカ―として説明される. 詳しくは吉枝(2011)参照. ここではペルシア語の強勢をとる他の派生接辞-iと区別するために, 音声上の特徴から単に「無強勢の-i」としておく. 本稿では, 強勢をとる接辞-iはグロス中に示していないため, 名詞の後に-iSUFとしてある-iは全て, この「無強勢の-i」を指す.

u fārsi balad ast.
 彼 ペルシア語 できる, 分かる(ADJ) COP.IND.PRES.3SG

balad「分かる」は, (5)の montazer「待っている」, donbāl「～を求める」のようにエザーフエによって連結することはできない.

u fārsi mifahmad.
 彼 ペルシア語 理解する-IND.PRES.3SG

(7)

ペルシア語では, 「憶えている」「忘れる」「気に入る」「楽しむ」等の知覚や感覚を表す場合, 知覚・感覚を表す語彙を文法的な主語においた非人称構文で表されることが多い. この場合, 動作主体は「記憶」等に接続する接尾辞形人称代名詞で表す. 動詞は「記憶」等の知覚・感覚を表す語に対応して常に3人称単数をとる.

a. あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか?

čizi rā ke diruz be šomā goftam
 こと+iSUF ~を POSTP REL 昨日 ~に PREP あなた 言う-IND.PAST.1SG
 yād-etun hast?
 記憶+PRON.SUF.2PL COP.IND.PRES.3SG

直訳すると「昨日私があなたに言ったことがあなたの記憶に存在しますか」に近い意味. 動詞部分を be yād dārid?「あなたの記憶に(あなたは)持っていますか」にすることも可.

b. 私は彼の電話番号を忘れてしまった.

šomare-ye telefon-e u (az) yād-am raft.
 電話番号+EZ 彼 ~から PREP 記憶+PRON.SUF.1SG行く, 去る-IND.PAST.3SG

直訳では「彼の電話番号が私の記憶から去った」. az は省略されることが多い.

šomare-ye telefon-e u rā farāmuš kardam.
 電話番号+EZ 彼 ~を POSTP 忘れる-IND.PAST.1SG

非人称構文以外に, 上のような他動詞文も可能.

(8)

a. 母は子供たちを深く愛していた.

mādar be baččehā-yaš ('amiqan) 'ešq mivarzid.
母 PREP 子供-PL+PRON.SUF.3SG (深く) 愛する-IND.IMP.F.PAST.

b. 私はバナナが好きだ.

man mowz dust dāram.
私 バナナ 好む-IND.PRES.1SG

c. 私はあの人が嫌いだ.

(man) az u bad-am miyāyad.
私 ~から PREP 彼 悪感情?+PRON.SUF.1SG 来る-IND.PRES.1SG

(man) az u xoš-am nemiyāyad.
私 ~から PREP 彼 好感情+PRON.SUF.1SG 来る-NEG IND.PRES.1SG

「好む」「愛する」に関しては、dust dāstan 等の他動詞を用いるが、「気に入る」等の感情については慣例的に、(8c)のように、上記(7)で説明した非人称構文を用いる。(8c)は直訳すると「彼から私の悪感情がやって来る(または好感情がやって来ない)」となる。口語では文頭にさらにトピックを表す manなどを置くことも可能。

(9)

a. 私は靴が欲しい.

man kafš mixāham.
私 靴 欲する-IND.PRES.1SG

b. 今、彼にはお金が要る.

u alan be pul ehtiyāj dārad.
彼 今 ~に PREP 金 必要とする-IND.PRES.3SG

状況によって動詞 xāstan「欲する、望む」、または ehtiyāj/lāzem「必要な」などを含む複合動詞で表される。

(10)

a. (私の) 母は (私の) 弟がうそをついたのに怒っている.

mādar-am az doruq-e barādar-am
母+PRON.SUF.1SG ~から PREP 嘘+EZ 弟+PRON.SUF.1SG

asabāni ast.
怒った COP.IND.PRES.3SG

mādar-am az inke barādar-am doruq
母+PRON.SUF.1SG ～から PREP CONJ 弟+PRON.SUF.1SG 嘘
goft (e) asabāni ast.
言う IND.PAST.PTCPL.3SG 怒った COP.IND.PRES.3SG

b. 彼は犬が恐い.

u az sag mitarsad.
彼 ～から PREP 犬 恐れる-IND.PRES.3SG

tarsidan 「恐れる」, porsidan 「尋ねる」, da'vat kardan 「招待する」, xāheš kardan 「依頼する」
等の一部の動詞では、直接目的語は *rā* でなく前置詞 *az* をとる.

(11)

a. 彼は父親に似ている.

u šabih-e pedar-aš ast.
彼 類似+EZ 父親+PRON.SUF.3SG COP.IND.PRES.3SG

u be pedar-aš šabāhat dārad.
彼 ～に PREP 父親+PRON.SUF.3SG 似る-IND.PRES.3SG

b. 海水は塩分を含んでいる.

āb-e daryā namak dārad.
水+EZ 海 塩分 持つ-IND.PRES.3SG

(12)

a. 私の弟は医者だ.

barādar (-e kučak) -am doktor ast.
兄弟 (+EZ 小さい) +PRON.SUF.1SG 医者 COP.IND.PRES.3SG

b. 私の弟は医者になった.

barādar (-e kučak) -am doktor šod.
兄弟 (+EZ 小さい) +PRON.SUF.1SG 医者 ～になる-IND.PAST.3SG

(13)

「能力的に可能」は、(6)であげた形容詞 *balad* 「～できる」と可能を表す助動詞 *tavānestan*

+本動詞との組み合わせの二通りで表される。

a. 彼は車の運転ができる。

u rānandegi balad ast.
彼 運転 できる(ADJ) COP.IND.PRES.3SG

u balad ast rānandegi konad.
彼 できる COP.IND.PRES.3SG 運転する-SUBJ.PRES.3SG

(13a)では ast の後に名詞節を導く接続詞 ke が省略されていると考えられる。ペルシア語では、客観的な判断や結果等を表す場合、A (判断等を表す形容詞) +COP+ke 節「～ (=ke 節) は A だ」の、一種の非人称構文で表すのが一般的である。

u mitavānad rānandegi konad.
彼 できる-IND.PRES.3SG 運転する-SUBJ.PRES.3SG

b. 彼は泳げる。

u šenā balad ast.
彼 泳ぎ できる(ADJ) COP.IND.PRES.3SG

u balad ast šenā konad.
彼 できる COP.IND.PRES.3SG 泳ぐ-SUBJ.PRES.3SG

(14)

以下の文の他に、「彼の長所・短所は～だ」という表現も可能。

a. 彼は話をするのが上手だ。

u dar sohbat kardan mahārat dārad.
彼 ～に PREP 話す-INF 熟達 持つ-IND.PRES.3SG

b. 彼は走るのが苦手だ。

u xub nemitavānad bedavad.
彼 うまく できる-NEG.IND.PRES.3SG 走る-SUBJ.PRES.3SG

(15)

a. 彼は学校に着いた。

u be madrese resid.
彼 ～に PREP 学校 着く-IND.PAST.3SG

b. 彼は道を渡った／横切った.

u az ān xiyābān rad šod / gozašt / 'obur kard.
 彼 ～から PREP その 道 渡る／横断する-IND.PAST.3SG

c. 彼はあの道を通った.

u az ān xiyābān rad šod / gozašt / 'obur kard.
 彼 ～から PREP その 道 渡る／横断する-IND.PAST.3SG

rad šodan / gozaštan 「通る, 通過する」については, 動作の対象は rā でなく前置詞 az を用いるのが慣例.

(16)

形容詞+コピュラで表すことも可能だが, (10)であげた知覚を表す非人称構文の方が高頻度に用いられる. この場合, 本来必要のない動作主がトピックとして文頭に置かれることがある.

a. 彼はお腹を空かしている.

u gorosne (-aš) ast.
 彼 空腹の(+PRON.SUF.3SG) COP.IND.PRES.3SG

直訳すると, 「彼は, 彼の空腹が存在している」に近い意味. a,b 共に文頭 u はなくてもよい.

b. 彼は喉が渴いている.

u tešne (-aš) ast.
 彼 のどが渴いた(+PRON.SUF.3SG) COP.IND.PRES.3SG

(17)

(16)と同様に非人称構文をとる.

a. 私は寒い.

man sard-am ast.
 私 寒い+PRON.SUF.1SG COP.IND.PRES.3SG

man は省略可能.

b. 今日は寒い.

emruz (havā) sard ast.
 今日 (天候) 寒い COP.IND.PRES.3SG

参考文献

- 吉枝聡子.2011. 『ペルシア語文法ハンドブック』 白水社.
Windfuhr, G.L. 1979. *Persian Grammar; History and State of its Study* (Trends in Linguistics, State-of-the-Art Reports 12), The Hague/Paris/New York, Mouton
Perry R. and Windfuhr G.L. 2009. Persian and Tajik, *The Iranian Languages* (Windfuhr G.L. ed.). London/New York, Routledge.pp.416-515.

略語

ADJ	形容詞	PERF	完了
REL	関係詞	PL	複数
CONJ	接続詞	POSTP	後置詞
COP	コピュラ	PREP	前置詞
EZ	エザーフェ	PRES	現在
IND	直説法	PRON.SUF	接尾辞形人称代名詞
INF	不定詞	PTCPL	分詞
IMPF	未完了	SG	単数
NEG	否定	SUBJ	接続法
PAST	過去	SUF	接尾辞